

孤独とバナナと猫。2018年10月

眞鍋由比

ヘミングウェイは、アメリカ文学史上、重要な位置を占める短編小説を、完成の域にまで高めた作家の一人として記憶される。

”ヘミングウェイ”，日本大百科全書（ニッポニカ），JapanKnowledge，<https://japanknowledge.com>，（参照 2018-10-11）

「キリマンジャロの雪」という短編を読んで、ヘミングウェイが自殺した気もちが少しだけわかった気がします。華やかな女性遍歴なのにどこか孤独を漂わせる人。

どうしてこれを紹介したかったかという私の大好きな漫画「BANANA FISH」に出てくるからです。アッシュがキリマンジャロの氷河の中に閉じ込められた豹に思いを馳せている。おそらく豹は、自身ではもう登ることも下ることもできないことがとわかっていたろう。それでもなお高みをめざしたのか？どんな気もちだったのだろう。この作品を読むといっそうアッシュの孤独の深さが理解できる気がします。

タイトルのBanana Fishもまた、それを見ると死にたくなる魚。「バナナフィッシュにうってつけの日」はサリンジャーの短編。この小説もまた日向の陽光をみながら、心に影を宿した主人公に訪れる悲しい結末。物質にはめぐまれている生活、裕福とすらいえる毎日なのに、何が欠けているのか？

西崎憲編訳『ヘミングウェイ短編集』ちくま文庫 2010にはアイルランドの国民的作家ジェームズ・ジョイズが**完璧**と評した「清潔で明るい場所」も収められていますが、これもそれぞれに孤独を感じる老人、ウェイターがでてきます。自殺しようとした老人。姪がとめたのですが、夜中の3時までカフェで飲んでいる。妻が待っているから早く帰りたがっているウェイター。特に急がなくてもいい、店にいたいもう一人のウェイター。

陽光あふれるキーウェストにたくさんの猫と住み、ノーベル賞とピューリッツァー賞を同時受賞するような才能豊かな作家が、自殺で人生を終える。わからないものです。

さて、猫といえば、現在**六甲ミーツアート2018**が六甲山で実施されて、メインビジュアルが大きな木の猫です。

本校美術部も六甲枝垂れで天使（てんしろうくん）を展示、ワークショップ「天使の輪をつくろう！」を10月20日（土）、28日（日）、11月3日（土・祝）、23日（金・祝）

【時間】10：00～16：00にやっています。ぜひ行って、できれば28日までに投票してほしい！

11月11日（日）まで六甲オルゴールミュージアムでは夜間に湖上でジョルジュ・メリエス監督の「月世界旅行」も上映しています。映画「ヒューゴーの不思議な発明」に出てきた特殊撮影の父、物語映画の祖メリエスの映画の創世記の作品です。ミサイルに乗り込んで月に行ったら、ミサイルが月の目に突っ込むというファンタジックな無声映画。是非見てください。素敵な影絵、美しくよくできたオルゴールコンサート、そして大小の木の猫は夜も鑑賞可。

